



「言葉」は非常に重要なコミュニケーションツールです。

国籍、人種、宗教、文化、それぞれが違う人間でも  
共通の「言語」があれば交流することができます。

実は、『スポーツ』も同じです。

スポーツは国は違えどルールは同じで、

スポーツを通して通じ合うことができる。

「言葉」に匹敵する重要なコミュニケーションツールでもあります。

本学では様々な実習を通して実際に異国でスポーツの支援・指導を行い、  
そのために必要な知識・スキルを学びます。

**英語ができないから自分にはできない。**

そう諦めいませんか？

入学してから語学力は十分伸ばすことが出来ます。

一緒に学び、成長し、世界でスポーツの支援・指導をしませんか？



# スポーツ国際学科

世界の空気に触れ、スポーツを通じて国際交流を推進する



新カリキュラムが始まります！

文化の多様性 × 指導力 × 国際性を  
中心としたカリキュラム

# スポーツによる国際相互理解

スポーツによる開発援助

スポーツによる国際協力

スポーツによる国際交流

## 日本の精神に根差した実践的な 知識・技術・理論を習得！

国際交流には、相手の国の文化習慣を理解する姿勢が不可欠です。そのため、スポーツを中心 に文化を相対的に捉える力を養うカリキュラムを多彩に用意しています。さらに、フィールドワークで実践力を養います。

スポーツ文化論

文化人類学

スポーツ人類学

スポーツ国際概論

スポーツフィールドワーク論

スポーツと国際協力

ほか



## スポーツ国際学科3つのポイント

POINT  
**01**

### スポーツ文化について考える



スポーツ基本法の前文で、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」というたわれています。そこで基幹科目(理論)では、「スポーツ国際概論」「スポーツフィールドワーク論」「アジアのスポーツ文化論」「欧米のスポーツ文化論」「ニュースポーツ論」の授業を通して文化を相対的にとらえる視点や考え方、方法について学修します。

POINT  
**02**

### 実践につなげる



基幹科目(実践)では、基幹科目(理論)で学んだ知識を実際に活用するトレーニングとして「スポーツフィールドワーク実習」「ニュースポーツ実技」が必修科目になっています。他にも海外でのスポーツ支援を実地体験できる「スポーツ国際実習」「スポーツ国際支援実習」などの学修を通して、実践につなげていきます。

POINT  
**03**

### さらに好奇心を広げよう！



展開科目(理論)では、基幹科目(理論)の学問的焦点を深めるとともに、その近接領域を拡大していきます。また、展開科目(実践)では、体を使って自己の内面を表現する技術や、海外で道具を一切使わずにスポーツを指導する技術の獲得、エスニックスポーツという概念に含まれるスポーツの体験などがあり、さらに好奇心を広げていくことができます。



スポーツは「ことば」を超える